

『第4回るるぶ広島会開催報告』

梅雨入り前の暑さも雨もかろうじて避けられた5月29日(木)に、大竹市の下瀬美術館を訪れました。参加者は6名、ローカルなイタリアンで美味しいランチとの大満足ツアーになりました。

大竹駅まではJR利用、駅近くのかわいいレストラン「ユイット」でパスタランチをいただきました。野菜が美味しくソースやドレッシングが優しい味で、ボリュームも今の私たちにちょうどよく、居心地のいいランチタイムを過ごしました。駅までプラプラ、駅からコミュニティバスでゆめタウンまで。店内を通り抜けて海の方へ向かい、広大な敷地の「SHIMOSE」に辿り着きました。(バス停から迷いながら歩きました……。)

下瀬美術館は、環境への深い配慮と革新的なデザインで知られる坂茂(ばんしげる)氏が設計しました。ユネスコ創設の建築賞<ベルサユ賞>にリストアップされた2024年「世界で最も美しい美術館・博物館」7施設のひとつに選ばれ、一躍有名になりました。

当日の特別展は、「周辺・開発・状況—現代美術の事情と地勢—」というアジアの現代作家の作品展示でした。水盤に浮かぶカラフルな8つの可動展示室を巡り鑑賞しましたが、難解な作品も多くみんなの感想は、終始「ようわからん」でした。



(対岸に安芸の宮島が望めます)

美術館には素晴らしい収蔵品も多いので、その一部でも見ることができればよかったですのに、とちょっと残念でしたが、施設全体の美しさが不満を満足に変えてくれました。



屋外にある「エミール・ガレの庭」には、バラやポピーなどガレの作品に登場する草花が咲いており、散歩道が誘導してくれる望洋テラスでは、瀬戸内の心地よい風に吹かれて、遠くは大竹コンビナート、対岸は宮島を見ることができます。館内・外は「ミラーガラス・スクリーン」で一体化されており、自然が映り込み気持ちのいい空間を創り出しています。



圧巻は、エントランスの開放感です。36本のヒノキ材を一つにまとめた2本の大柱があるだけで、受付、カフェ、ミュージアムショップとの仕切壁がないのです。大柱は天井に向かい放射線状に梁が広がる樹木となり、ガラスの向こうの水に浮かぶ展示室と不思議な調和を見せてくれます。

また、館内に置かれているベンチは、紙管という再生紙の筒を組み合わせたもので、紙の建築家と言われる坂茂氏のデザインによるものです。座り心地も良かったです。



風が吹き抜けるかのようなカフェで、最後のお茶とおしゃべりを楽しみ、るるぶ会を終了しました。美術館を出るころ雨が降り出しましたが、行いのいいメンバーのおかげで大降りにもならず、最後まで大笑いの愉快な一日でした。ご参加のみなさま、ありがとうございました。

(報告:久井)